

# はたらく青年

発行・日本共産党中濃地区委員会 2017年12月1日

〒505-0052 美濃加茂市加茂野町今泉 1163

電話 0574(26)8195 メール jcp.chunochiku@plala.or.jp

## トヨタの「新・裁量労働制」のねらい



(写真は街頭で賃上げを訴える青年のみなさん)

トヨタ自動車は、これまでの裁量労働制の枠を広げるとして「トヨタ方式」は、利潤を最高値にする最善策として民間企業の見本とみなされてきました。トヨタの部品調達「ジャストイン」のようにこの賃金制度が広がる可能性があります。

トヨタは、「新・裁量的な働き方」について「賃金は掛けた時間の対価であるという考え方を払拭(ふっしょく)する」「会社の生き残りに向け『裁量を持った働き方』を通じた創造性の発揮が今後は不可欠」としています。その「新方式」は、①標準額は7万円とし、6段階評価となる『技能発揮考課点』の採用。②月45時間分を残業相当分として現在の1.5倍に相当する17万円を裁量労働手当として支給するというものです。「電気自動車(EV)化など国際競争の激化のなかで技術者がほしいトヨタは裁量労働制や残業代ゼロをめざす労働法の改定を待つことができなかつたのではないか」の指摘もあります。

## 今35歳男の年収は16年前より53万円少ない

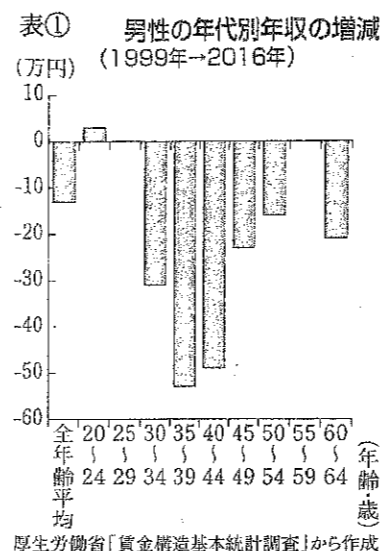
政府が発表した7月～9月期の国内総生産は外需が増し、内需が減少しており、国内総生産の6割を占める個人消費が落ち込んでおり、消費不況は明らかです。特に消費税が8%に増税された2014年4月以降の42ヶ月間に家計調査の消費支出が前年同月比で増えた月は、わずか4回です。「アベノミクス」の中止と国民の暮らしを応援し、福祉を充実させる政策への転換が求められています。

資本家の本山・経団連も「個人消費低迷の分析と今後の対応」(10/23)を発表し「世帯年収の下方シフトに伴う中間層の減少」と指摘しています。「男性の年代別年収の増減」(表①)は、厚生労働省「賃金構造基本凍結調査」から1999年と2016年との世代別の賃金を調べたものです。男女計の全世帯平均で賃金は

年収で497万円から490万円へと7万円も少なくなっています。男性では562万円から549万円へと13万円減少しています。最も落ち込んでいるのは、35～39歳の年間53万円で、これは16年前の同年齢の年収が53万円少ないことを示しています。続いて40～44歳の49万円、30～34歳の31万円、46～49歳の23万円と続きます。

### 平均賃金が下がったのは、非正規労働の増加

「働き盛り」とされる30～40歳代で、すさまじく賃金が切り下げられています。1995年「新時代の『日本的経営』」(日経連)が「年功序列賃金の改革」が提案され、99年労働者派遣業の自由化、03年製造業への派遣業解禁されたことが元凶です。2002年ある週刊誌は「社員になりたい、でもなれない…お父さん世代100万人突破」(サンデー毎日)と書きました。こうして「中間層」から「貧困層」への転落が続いています。



## ゴルフ倶楽部労働組合120人がストライキ

11月11日、岐阜県の「明智ゴルフ倶楽部労働組合」(組合員120人)は、ベースアップなどの労働条件の改善を求める団体交渉を行って9日までに合意できなかったため、午前9時から午後2時までの時限ストライキに入りました。明智ゴルフ倶楽部は、富士カントリーが2014年12月に倒産したために川辺町、美濃加茂市などの5カ所のゴルフ場を経営しており、同労働組合は2015年10月に結成されています。

## 外国人技能実習 11月から介護にも解禁

外国人が日本で働きながら技能を学ぶ「外国人技能実習制度」に11月から介護が加わり、計77職種で実習が可能になります。新制度では受け入れ企業や実習生の管理団体に対して監督を行う「外国人技能実習機構」が新設されました。安価な臨時労働者確保の手段との批判を受けて、「改善」を図る姿勢を示したのですが、基本的な構造は変わらないままで、矛盾が広がる危険性を抱えたままのスタートとなっています。

介護は専門職としてコミュニケーション能力が求められますが、日本語能力の要件は「日常的な場面で使われる日本語をある程度理解すること」(日本語能力試験N3程度)ができればよいと低く設定されています。実習時間も少なく実習生を受け入れやすくするために介護の質を犠牲にする基準緩和がされています。日本医労連は「介護分野への拡大は低賃金・無権利労働者を拡大し、介護現場に深刻な弊害をもたらす」と中止を求めてきました。実習技能生は、現在約25万人(6月現在)です。

## “建設健保を守れ” —全建総連定期大会

全建総連(全国建設労働組合総連合・大工さんや工務店のみなさんによる労働組合)は札幌市で定期大会を開催し、10月27日、運動方針を採択し、役員を選出して閉会。

採択された運動方針は、▽医療制度の一元化に反対し、国保組合の育成・強化を求める(総連はいわゆる建設健保を自前で運営しています)▽アスベストを含む労災補償の拡充と安全衛生対策の強化▽民主的で公正な税制の確立、消費税10%反対▽平和と民主主義を守る一などです。

## 9・28 クーデターによる分断策許さず

日本共産党の志位和夫委員長は、11月1日の特別国会開会にあたって、「市民と野党の共闘が、希望の党の登場とそれへの民進党の合流という重大な逆流によって危機に瀕(ひん)したさいに、日本共産党は身を挺(てい)して逆流を止め、日本の民主主義を守った」—こうした評価が各界から寄せられていることは、大変うれしいことでもあります」と、党国会議員団総会で語りました。

先の総選挙直前の「希望の党」の立ち上げとそれへの民進党の合流は、改憲をめざす保守二大政党による国会占拠になるのではないか、この危機を感じ、それを語った雑誌の編集者があります。その編集後記を紹介します。

### 「右翼二大政党に国会を占拠させるのか」の危機

それは、雑誌『世界』(11号)の編集後記です(11号の発売日は10月8日ですから、書かれたのは9月末日前後ではないでしょうか。その気分をわかっていたくために長文になりますが、紹介します。紹介するのは編集後記の一部分です)。

「…解散風が政界再編の巨大台風にみるみる成長して吹き荒れる中、校了作業をしている。この後記も明日の政治状況が見通せないまま書いている。一日一日、フェーズが変わっていく。小池百合子都知事(本号が店頭に出る頃には、肩書きが変わっているかもしれない)について、いまでも思い出す強烈な記憶がある。2004年4月、ボランティア活動家の高遠菜穂子さんら3人の日本人がイラクで人質となったとき、小池環境相が記者たちにコメントを求められた。「自己責任でしょ」—こう言い放つ姿をテレビの画面で見て、血の気が引いた。その後、「自己責任」という言葉はあっという間に広がっていった。私にとって、小池氏とはそういう人だった。「いまなら勝てるから解散」だったはずが、『自民VS希望』、『安倍VS小池』という構図にあっていう間にもっていかれようとしている。小池恐るべしである。結局は保守二大政党制に落ち着くか、いや右翼二大政党制とでもいうべきものになるか(考えたくもないが)。政党政治が瓦解した、というより、政党が選挙互助会化したなれの果てなのかもしれない。校了作業中の時点で、民進党がどうなるかは不透明だ。人材も

金も不足している「希望」にのっとられるのだろうか。志ある議員には勝ち残ってほしい、という気持ちである。2009年の政権交代でさっそうと誕生した民主党政権だったが、3・11という未曾有の事態に直面したこともあり、稚拙な政権運営が批判され短命に終わった。だが、事あるごとに『民主党政権のあの暗い時代に戻っていいのか』と安倍氏に言われなければならないほどひどかったのか、と思いを巡らすことも、もはや意味をなさないのか。…」と憂えています。

### “連合も了承”の前原報告に“合流やむなし”となり・・・

衆議院が解散された9月28日、民進党は両院議員総会で前原党代表が「連合も了承」と報告し、「民進党の公認候補は全員希望の党の公認候補となる」と解党と希望の党への合流を提案。この解党路線に、民進党全体が乗り、「合流やむなし」となる。

これまで、民進党を含む日本共産党、社民党、自由党は今年の参院選後に党首会談をひらき、安倍政権打倒をめざして衆院解散と衆院選挙準備をすすめることに合意し、さらに9月26日には市民連合との間で、7項目の政策合意が確認されたばかりでした。この政党間の合意と市民連合との合意を一方向的に破棄した民進党の裏切りによって“右派二大政党”の可能性がつけられました。

### 10月2日、立憲民主党の結党を発表

小池希望の党代表が9月29日、民進党候補が全員希望の党の公認候補となることは「さらさらしない」、「排除する」と表明し、「安保法制容認」、「憲法改正支持」を内容とする誓約書へのサインが希望の党候補者の条件であるとなりました。

他方、日本共産党は「市民と野党の共闘で日本の政治を変えるという大方針を貫く」として、9月28日社民党との共闘合意と候補者調整を表明し、10月3日には、立憲民主党枝野幸男代表での選挙区での共産党候補者の取り下げで「一本化」を促進するしました。また、「希望の党」からの立候補を表明した民進党の候補者に「希望の党にいつてはいけぬ」との説得活動も各地で広がり10月2日立憲民主党の結党が発表されます。この立憲民主党には「勝ち残ってほしい」、「右翼二大政党制は許せない」、「市民との約束を守り、共闘してほしい」などの期待から「10月20日現在、約四千人から計8500万円超の寄付」(朝日 11/5 社説)が寄せられたと言います。

### 崩れかけた共闘を立て直す—北海道・川原茂男さん

9月28日、民進党が丸ごと希望の党に合流するとの発表を聞き、私は率直に言って、「今までの努力は一体何だったのか」と無力感に襲われました。…市民の会はすぐに希望の党の小池代表による過去の改憲容認の発言などを調べ、共闘の原点に反すると判断しました。10月1日に『市民の風』としての緊急声明を発表しました。声明発表後、事前に無所属からの立候補を表明していた3氏に加え、雪崩を打ったように次々に候補者が希望への合流を否定。中には一度希望への合流を明言したものの、市民に謝罪し合流を撤回した候補者も生まれました。…北海道では全12選挙区で共通政策の協定を結び、5選挙区で勝利しました。

### くさび打たれても踏ん張る—福島・那須稔雄さん

福島では当初、5つの小選挙区全てで民進党候補者が希望の党に行くという話があり、みんな「これで共闘は終わってしまうのか」と衝撃が走りました。

それでも、2年半近く積み重ねてきた共闘を守り続けるんだと最後まであきらめなかった。福島1区の候補者を金子恵美さんで一本化し、勝利できたのはそうした市民の強い意思があったのです。

金子さんの勝利は共闘の賜物です。市民連合は、希望の党に合流するか迷っていた金子さんに「それはだめだ、だめな路線なんだ。私たちと一緒にたたかおう」と何度も働きかけました。金子さんは、私たちの思いを受け止めて、無所属で立候補を決めたのです。

### 自民党勢力に国会を席卷させない—三重・森原康仁さん

三重には4つの小選挙区があります。このうち1区、2区、4区で野党統一候補を擁立する方向で、民進党、共産党、社民党各県組織と話し合いを重ね、「あとは各党本部の確認を待つだけ」という状態でした。野党共闘でたたかう選挙は総選挙が2回目で、県内には信頼関係が蓄積されていました。「希望」による混乱はこういう信頼関係に亀裂を入れるものにほかなりませんでした。…市民や野党が安保法制の廃止、安倍政権下での憲法改悪の阻止を掲げる候補を押し上げなかったら、自民党とその補完勢力が国会を席卷することは火を見るよりあきらかでした。これを阻止したいという、やむにやまれぬ切迫感が混乱を乗り越える力になりました。